

中国：貿易統計（2018年10月）

—輸出が予想を上回る上昇—

MRI Daily Economic Points

November 12, 2018

図表1 輸出入額の対前年増加率



図表2 輸出増加分に占める国別の貢献割合

1 米国	20.2%
2 香港	12.6%
3 日本	5.7%
4 韓国	4.0%
5 ベトナム	3.3%
6 ドイツ	3.1%
7 インド	3.1%
8 オランダ	3.0%
9 英国	2.5%
10 オーストラリア	2.0%
11 ロシア	1.9%
12 シンガポール	1.9%
13 メキシコ	1.9%
14 台湾	1.9%
15 マレーシア	1.8%
16 インドネシア	1.7%
17 タイ	1.6%
18 カナダ	1.5%
19 フィリピン	1.4%
20 イタリア	1.3%
その他	23.7%

注: 17年8-10月と18年8-10月の輸出額を比較し、その増分を国別に分解し算出。

出所: CEICより三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 18年10月の貿易統計では、ドル建て輸出は前年同月比+15.6%と市場予測を大幅に上回る増加となった。また、ドル建て輸入は+21.4%と伸びが加速(図表1)。中国政府が開かれた経済をアピールするための輸入拡大策の効果が出始めた可能性がある。
- 米中は9月24日に互いに追加関税を発動したため、実体経済への影響が見える月は10月が最初となる。そのため市場では輸出の減速が見込まれていたものの、実際に輸出への影響は限定的となった。
- 輸出の増加に最も貢献したのは米国で、対前年比の輸出増加分の約20%を占めた(図表2)。米国向け輸出が増えているのは関税上昇前の駆け込みともみられている。
- しかし他の仕向け地向けの輸出も堅調に増加しており、特に欧州やアジア向けの輸出増が目立つ。欧州・アジア地域での堅調な消費の増加に、元安に伴い中国からの輸出品の割安感が高まったことが重なり、中国からの輸出の増加に寄与した。

基調判断と今後の流れ

- 今後、米国の対中関税がさらに上昇することとなれば、米国向け輸出の減速は避けられない。19年以降の対米輸出減速が懸念される。
- ただし、元安は他の仕向け地向けの輸出を下支えするとみられ、19年入り後の輸出の急減速は回避される可能性がある。
- リスクとしては、19年入り後にアジアや欧州の景気が急速に減速した場合、中国製品への需要が減退し、輸出減となる可能性が考えられる。中国政府は今後も輸入振興策を講じることが想定されるため、貿易赤字を通じた経済への下押し圧力には注意が必要だ。